

## 第3章 がんの治療 手術編

### 1.

今回から、「がん」の手術についてお話しします。

まず、皆さんに認識して欲しいのは、手術はがん治療の王道ということです。

がんの治療の3本柱は、手術・放射線・抗がん剤の3つです。

放射線や抗がん剤の治療は最近非常に進歩しています。

しかし、「がんを治す」という視点で見ると、やはり手術がメインの治療になります。というより、手術をメインの治療にせざるを得ない進み具合の患者さんが、いちばん多いということです。

前々回、早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（以下、内視鏡剥離術）についてお話ししました。

早期がんが多く見つかるがんでは、内視鏡剥離術の割合が増えて外科手術の割合は減ります。

ちなみに、岩手医大の胃がんを例にとると、内視鏡剥離術の症例数の方が多くなってきています。これは全国的にみても高い割合です。

その理由は2つ。1つは、胃がん検診が発達して検診で見つかるがんは、ほとんどが早期がんであること。そしてもう1つは、内視鏡剥離術が上手にできる医者がいるということです。

県内の他の病院では残念ながら内視鏡剥離術が可能な症例でも外科手術に回ることも多いのが現状です。

今回は手術の話をする予定でしたが、ちょっと話が脱線してしまいました。

次回から本格的にがんの外科手術に関してお話しします。外科手術も最近では進歩していて、少なくとも昔のように、「切腹してくる」などと、決死の覚悟で手術に臨むということはほとんどなくなってきています。胃を全部切り取っても、痛みはかなり少なく、術後数日で食事を始めて、10日から2週間以内に退院して職場復帰するのが当たり前です。

大腸などはもっと楽にできる場合も多いです。

## 2.

前項でも書きましたが手術はがんの治療の王道です。しかし、「手術」と聞いて、皆さんが第一に思い浮かぶのは「不安」、「おっかない」ですよね。なぜそうなのか、私が外科医として手術をやってきた経験上、その理由がいくつかあると思います。

- ①うまくいかなかったら？死んだり、後遺症が残るのでは？
- ②自分の家族や知り合いが手術後うまくいかなかった。
- ③痛いのは嫌だ！！
- ④麻酔で意識がなくなるのが怖い。
- ⑤信頼できる医者にも手術してもらえないかどうか分からない

等々。これらはもったもです。一番心配なのは①だと思います。医学的には「合併症」と言い、薬の副作用と同じと考えて良いです。医学の進歩は非常に早く、外科手術にもかなりの進歩があります。

しかし、残念ながらある一定の割合で合併症が起こるのは避けられません。間違っただけで欲しくないのは、合併症の起こる確率というのはかなり低いものです。医師から手術の話を知ると、手術すれば恐ろしい合併症が必ず起きてしまうような錯覚を受けます。

現在の医療訴訟で一番多いのは、「医師の説明がなかった」が理由で有罪になることです。

ですから、医師は何万分の一の確率の合併症でも説明し、死んでしまうことがあるかと言ってしまいます。

これはアメリカのような訴訟社会の悪弊が日本に伝染したもので、一般の患者さんに大きな誤解を与えています。がん治療として手術を選択する場合は、がんを治すために手術が最適である場合と考えて下さい。

がんが治らなければ死んでしまうわけですから、その辺を間違えないで欲しいものです。

## 3.

最近のがんの手術はものすごく進歩しています。身近な人ががんの手術を受けて、あっという間に退院してきていませんか？

10～20年前は覚悟をきめて「切腹してくる」みたいに思い詰める人も少なくなかったですし、一旦手術で入院すれば1～2ヶ月入院は当たり前でした。

ところが最近では、通常の胃がんや大腸がん手術なら1～2週間、乳がん手術なら長くても1週間程度の入院です。

なぜそうなったのでしょうか？ それは鏡視下（きょうしか）手術の普及が大きいのです。

鏡視下手術とはお腹に0.5～1.5cm程度の穴を開けて、そこからカメラや長い鉗子（かんし＝手術用の「手」のかわり）を入れて手術する方法です。

胃や腸を切ったり縫い合わせたりする機械もたいへん進歩しました。

（ちょっと脱線・・・医療用のカメラや内視鏡は世界的にオリンパスが7割～8割以上のシェアを占めていて、実は超・優良企業なのです。ですから不祥事がちょっとあってもオリンパスと提携したがる企業はたくさんあるので、倒産の心配はないのです。）

これで、お腹の傷はとても小さくてすみます。

すると痛みも軽く早く起き上がれるし、すぐにご飯も食べられるようになり、早く退院できるのです。

身内の自慢でものいいのですが、実は私が勤務していた岩手医大の外科は全国でも有数の鏡視下手術実施施設です。

東大や京大を初め、全国の名だたる大学や病院から多くの先生が見学に来られます。

そして従来の開腹手術と同等の治療成績が得られるようになってきています。

😊